

平成25年6月12日
改定 平成25年7月 5日

岩手県知事 達増拓也 殿

震災復興プロジェクト近畿

震災がれきの不必要な広域処理の中止を求める要望書

大震災と津波という未曾有の大惨事に当たり、被害にあわれた皆様に哀悼の意を表し、また災害復興にご尽力されている皆様に感謝と敬意を申し上げます。

岩手県では、大変困難な状況の中で震災復興に取り組んでいらっしゃることは重々承知致しておりますが、今般岩手県が環境省と共に取り組んでいる震災がれきの広域処理について、以下のように疑問点及び要望を提出いたします。

1) 広域処理が必要なら、その根拠となる情報をなぜ隠すのか

今般の震災がれきの広域処理は、環境省が必要量を発表し、それに基づいて進められてきました。ところが、宮城県から他府県への瓦礫の広域処理は平成24年度で全面終息しました。また岩手県から他府県への瓦礫の広域処理も、埼玉県や静岡県での広域処理が終息し、いずれも予定を1年以上前倒しで終息しました。これらの広域処理が1年以上前倒しで終息した原因は、再調査の結果、がれきの推計量が大幅に下方修正されたからです。

それにも拘わらず、今年2月1日から大阪への震災がれきの持ち込みが始まりました。

そこで私たちは、岩手の住民と連携し、震災がれきの広域処理が本当に必要なのかを調べるために、岩手県に情報開示請求しましたが、それに対して岩手県は、非開示という対応をとりました。(資料1 <http://savechildosaka.web.fc2.com/i/130401aoki.kuronuri.pdf>)

「広域処理の必要性」を証明する行政文書を開示することなく、現地処理と比較して数倍コストが高い広域処理を進めることは、私たち納税者として到底納得できるものではありません。広域処理を進める以上、情報公開法や同条例に基づいてその必要性を明らかにすることは、広域処理に関与する自治体として当然の責務と考えます。

2) 県内処理量を減らしてまで、広域処理を続けるのはなぜか

この6月に「岩手県災害廃棄物処理詳細計画」の改訂版が発表されました。その内容を見ると、宮古地区や山田町の震災がれきの県内処理量が、平成24年度に比べて平成25年度は大幅に縮小されています。また、平成24年度分の処理実績も、当初の計画処理量よりも減らしていたことも分かりました。

(資料2 <http://savechildosaka.web.fc2.com/i/130618syuzaimemo.pdf>)

そのうえ、宮古地区仮設焼却炉の運転を、「ごみ量不足のため」という理由で、何度も休止させていたことも、情報開示請求で入手した「仮設焼却炉・運転日報」から発覚しました。

(資料3 <http://savechildosaka.web.fc2.com/i/130705iwate.kasetu.pdf>)

被災自治体で震災がれきを処理した上で、それでも尚処理できないものを広域処理するというのが、法令上の規定であったはずですが。岩手県も市民からの質問に対して、「県内の処理施設だけでは期限内に処理することができないことから、どうしても広域処理をお願いせざるを得ない」と答えています。（資料4 <http://savechildosaka.web.fc2.com/i/130705iwate.pdf>）

しかし実際は、県内処理量を減らすことで、処理コストの高い広域処理を継続している疑いが濃厚です。

もし、広域処理分を確保するために県内処理量を減らしたのであれば、国民を騙して広域処理の必要性を訴えたことになり、詐欺行為に等しい「不当行為」と言わざるを得ません。

3) 震災がれきの広域処理の大半が終息する中で、なぜ大阪に震災がれきを持ち込む必要があるのか

一般廃棄物としてのがれきは、発生自治体でまず処理することが法律上の規定となっていますし、震災がれきを遠隔地に運ぶことには、安全性の問題だけでなく、コストがかさむという問題点があります。

大阪で予定されている36,000トンの震災がれきの処理費用は、約15億6千万円ですが、そのうちの約8億4千万円が運搬費です。これらの費用はすべて、国民の税金を財源とする復興予算から支給されます。

（資料5 https://docs.google.com/file/d/0B_dm-jV6JQEtbGtTYWtIalo4OWs/edit）

（資料6 https://docs.google.com/file/d/0B_dm-jV6JQEteEgzVVpaTjRaZ1E/edit）

大阪に震災がれきを持ち込むことは、この大切な復興予算が、被災地ではなく大阪にある運搬業者や処理業者の不当な利益として浪費されることを意味します。

大阪にとっては、被災地支援を口実にした、まさに復興予算の横取りに他なりません。

4) 岩手県に対する私たちの要望

震災がれきの広域処理は、現地処理では不要な運搬費がかかることに加えて、震災がれきの広域処理をしていない自治体にも復興予算が流用されることの原因にもなっています。

（資料7 <http://savechildosaka.web.fc2.com/i/130412syukanposuto.pdf>）

（資料8 <http://savechildosaka.web.fc2.com/i/130601yomiurikiji.pdf>）

このまま達増知事が、必要性のない広域処理を続けるのなら、「復興予算を被災地以外に流用し無駄遣いをする知事」と世間は評価し、「復興予算の流用を根絶する」ことを掲げる「生活の党」の信頼をも失うことになるでしょう。

私たちは、岩手県の情報非開示の対応、そして広域処理を前提とした処理詳細計画に強く抗議し、今すぐ広域処理の中止を求めると同時に、被災地の真の復興のために、復興予算を有効に使うことを強く要望いたします。

以上、環境省や大阪の利権のためではなく、被災者や被災地のため、そして岩手県民の名誉のため、達増知事のご英断を心より願います。

【賛同団体一覧】

- ・子どもに豊かな未来とふるさとを残す会・宮古
- ・春を呼ぶ会（岩手）
- ・NPO 法人市民環境研究所
- ・東北の復興を考える会
- ・モモの家
- ・心援隊
- ・放射能防御プロジェクト近畿
- ・Oracle itami ～ポスト 3.11 を避難者と共に考える伊丹市民の会～
- ・関西*母と科学者の会・いのちプロジェクト
- ・「平和への結集」をめざす市民の風
- ・はちどり通信
- ・こどもの未来をまもる会・生駒
- ・おおさか生命環境コミュニタス
- ・花風香の会
- ・大阪の公害問題を考える会
- ・原発やめよう/つながろう関西・マダム会議
- ・エコリレーかめおか
- ・未来といのちを守る会
- ・未来をつむぐ会
- ・ストップ原発の会
- ・大阪此花発！STOP がれき 近畿ネットワーク
- ・ちょっと待って！放射能ガレキ 関西ネット
- ・子どもたちを放射能から守る・八尾の会
- ・子どもたちを放射能から守る・生駒の会
- ・あおぞらメーデー会
- ・ジャーニー・トゥ・ザ・フューチャー
- ・泉の森
- ・森のこや
- ・かぶら屋
- ・西屋敷
- ・三田の未来を守る会
- ・キッピーキッズ三田の子どもの未来を考えよう
- ・子どもの食と健康を考える会貝塚
- ・放射能から未来といのちを守る会・泉州
- ・放射能から豊中の市民・子どもを守る会
- ・610 放射能から未来を守る市民の会
- ・子どもたちを放射能から守る関西ネットワーク
- ・放射能からいのちを守る東大阪ママの会

- ・放射能からイノチを守る南大阪ネットワーク
- ・おかんとおとんの原発いらん宣言2011
- ・原発いらない八尾市民の会
- ・原子力は核の言い換え非核三原則を守れの会
- ・脱☆ヒバクの会
- ・放射能から未来といのちを守る会・泉州
- ・子供たちの未来と環境を守る会ひょうご
- ・みのお放射線はかり隊
- ・放射能から子どもを守る会・みのお
- ・カフェたま
- ・NON ベクレル食堂